図書館の窓から

春

2013.4 No.140

「祈」 金澤 翔子／書

【特集記事】

◆私の一冊　長岡技術科学大学　教授　末松 久幸 さん ……3ｐ

◆長岡藩主牧野家ゆかりの資料も新たにコンテンツに！
「ながおかネットミュージアム」を紹介 …… 4～5ｐ

館長通信　～　図書館の経済学　～

ケインズの経済モデルにならい「図書館の有効需要とは、市民による図書館の消費的利用と投資的利用の総体である」などとつぶやいてみます。

図書館の消費的な利用とは。市民が消費財として本を借りること。投資的な利用とは。市民が生産財として本を借りること。

消費財としての本。喜び、楽しみ、慰めなど心を満たすために読まれる本。ざっくりと「ゴラク」本。

生産財としての本。進学や資格取得などキャリア投資のため、随想や論文の執筆、創作など表現活動のために読まれる本。ざっくりと「ネタ」本。

借りたままで積ん読本なら、ざっくりと「在庫投資」本。

バブル崩壊からはじまった平成大不況。景気と一緒に読書熱も冷え込ませたのか、図書館にも予想外の影響を残しています。余暇に恵まれた高齢者層の増加は、少なくとも図書館の有効需要を増大させるハズ。これが図書館の経済学の語るところでしたから。

有効需要を増やし景気を良くするために、まずは消費の刺激策。とはいえ、心を満たす本を誰かに指図されて選ぶ市民がいるでしょうか。市民は読みたい本を読むものです。

曰く、個人の嗜好は経済学の関知するところにあらず。

ならばとるべき策は。ケインジアンの財政政策なら「国債がいかに増えようとも、政府による公共投資を断固実行」です。図書館の経済学なら「図書館の投資的な利用をさらに促進」でしょうか。

ブログ、フェイスブック、ツイッター。ネットの世界では今や誰もが表現者。その多様な言説のなかには、いわば投資を欠いた言葉の氾濫を危ぶむ声も。一方、たった一行の発言にも投資を疎かにしないスタイルも。

そんなクールな表現者にとって、図書館は生産財としての本の宝庫です。　（品田　満）

文書資料室だより　郷土長岡のアーカイブをめざして

最近、「アーカイブ」という言葉が、テレビ番組や施設の名前で使われています。英語で表記すると「archive」。現在・過去の歴史的な記録を未来へ伝えるための書庫や文書館施設、もしくは記録そのものを意味する言葉です。平成23年４月、「公文書等の管理に関する法律」（公文書管理法）が施行され、自治体の諸活動の記録としての歴史公文書をどのようにアーカイブしていくのか、全国的に注目が集まっています。

国立公文書館は、自治体職員やアーカイブ学を専攻する学生を対象に毎年、研修会を開催しています。昨年９月の研修会には、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会（事務局：新潟県立文書館）の派遣職員として文書資料室職員も参加しました。国内外の文書館を取りまく情勢や関係法規の解説など、約70人の参加者とともに５日間にわたる講義を聴講しました。

文書資料室は、市庶務課と連携して、保存年限が満了した公文書から歴史的な価値を持つ資料を選定し目録を作成、保管しています。また、戊辰戦争と長岡空襲の戦禍をまぬがれた古文書等も収蔵しています。「長岡市総合計画　後期基本計画」は、それらの歴史資料を適切に保存・管理し公開する文書館（仮称）の整備を構想することを明記しています。

上越市は平成23年度に公文書センターを開設しました。新潟市は検討委員会（事務局：新潟市歴史文化課）を設置し平成24年度に文書館整備基本計画案をまとめました。文書資料室も研修会に参加し、先進地視察を行いながら、長岡の郷土性を活かした特色あるアーカイブの構築に向けて、検討を進めています。

（田中 洋史）

▲歴史公文書の整理作業
平成23年度は891点の歴史公文書を収集。将来、歴史資料として活用することをめざしています。

私の一冊

長岡技術科学大学 原子力安全系 教授

工学博士　末松 久幸 さん

中学から大学院まで、私はずっと劣等生でした。大学３年では30人中14位、かろうじて真ん中より上。そんな劣等生の私が大学院に入ったある日、柄にもなくふとした疑問がわき起こりました：「温度って何だろう」と。こんなことは大学２年で習っているのに、頭に入っていなかったのです。先輩に聞いたところ勧められたのがこの本でした。

『ファインマン物理学』

レイトン、サンズ、ファインマン／著　岩波書店

この本の著者は、ノーベル物理学賞受賞者です。なのに、難しくなく、高校の数式のみで書いてあります。難しいことを難しく書くのは簡単ですが、難しいことを優しく書くには、相当考えてエッセンスを掴(つか)まなければなりません。これはすごい。「温度とは分子の運動エネルギーの平均」であることが一回読んだだけで分かりました。

その後この本のトリコになり、１年間他には何もせずに読み続けました。しかし、電磁気学の巻が、劣等生にはよく分かりません。特に微分で書いてある式がピンと来ない。そこで先の先輩に聞いたところ、教えてもらったのが下記でした。

『物理数学の直感的方法』

長沼伸一郎／著　通商産業研究社

この著者は、大学の講義に納得できず、自分でとことん考えすぎたために大学院を中退してしまいました。その後、フリーターを行いながら書いたのがこの本です。ところが、有名大学教授なら出せる本も、大学院中退フリーターが著者では売れる見込みは少ないと本屋から出版を断られました。そして自費出版を決意して出したのがこれです。そんな著者の本ですが、これがよくわかる！磁力線を川の流れに例え、軸を垂直にした水車を流れにつっこんで、これが回れば軸方向に電流が流れていることを正確に、そしてわかりやすく書いてありました。ノーベル物理学賞受賞者より、とことん悩んだフリーターの文章の方がわかりやすいことに衝撃を受けました。

私は今大学で教員をしています。大学には、自分が興味を持った分野をとことん考え抜いている同僚がたくさん（全員ではないですが）います。それらが書いた本が下記です。

『挑戦こそが成功の鍵』

吉川敏則、末松久幸／編著　近代科学社

「なぜ茶碗は割れるのか」、「なぜ透明な氷は作りにくいのか」のような理工学的な謎から、「なぜ人は寝坊するのか」、「なぜ暗号は必要なのか」、「なぜGoogle翻訳は40カ国語を扱えるのか」のようなおよそ理工学的でない謎まで解き明かしています。これは縦書きで、わり算一つ以外数式は全くありません。高校生はもちろん、文系の人でも分かるのではないかと思います。先の２冊は、とことん考え抜いた著者による物理や数学を簡潔に説明した名著でありますが、これも特定の謎を日本語で優しく解き明かしているのではないかと思っています。どれも、著者によるとことん考え抜いた結果のエッセンスが詰まっているのです。どうぞ、これらを味わっていただきたいなと思います。

『挑戦こそが成功の鍵』
吉川 敏則・末松 久幸／編著
近代科学社

末松 久幸（すえまつ・ひさゆき）

〈略歴〉平成３年 東京工業大学大学院理工学研究科原子核工学専攻博士後期課程修了、アメリカ合衆国ロスアラモス国立研究所 客員研究員・同ポストドクトラルフェロー等を経て、平成12年から長岡技術大学に勤務。現在「極端条件を活用した新物質・材料合成法開発」「新超伝道体探索、有機物吸脱着による酸化物の電気伝導性、磁性変化」を研究。趣味は、飛行機・グライダー操縦、釣り、スキー・スノーボード、天体観測。

いつでも！　気軽に！　あなたのＰＣ・スマホでも！

ながおか ネット・ミュージアム

ここでは「ながおかネット・ミュージアム」の代表的なコンテンツを紹介します。詳しくはサイトをご覧ください！

ご覧になるには　▶▶▶　ながおかネット・ミュージアム で検索してください。(http://www.e-net.city.nagaoka.niigata.jp/museum/)

「長岡市立図書館」または「長岡市」ホームページのトップページのバナーからもお入りいただけます。

ながおかネット・ミュージアム　とは…

長岡市立中央図書館のデジタルアーカイブです。長岡市では、平成15年２月から長岡市ホームページ内「ｅーネットシティながおか」のコンテンツの一つとして、当館が所蔵する貴重資料の保存と公開を目的に一部をデジタル化し「ながおかネット・ミュージアム」としてインターネット上に公開しています。

現在、長岡の文化遺産ともいうべき貴重な資料約170点が、鮮明な画像と解説等でご覧いただけます。

1.塵壺　河井継之助が残した唯一の著書

河井継之助が西方遊学の際に記した旅日記。原本は、縦８×横17㎝、横つづりの冊子で、本文には美濃紙を使用。安政５年(1858)12月27日の長岡出発から翌年12月22日の松山までの記録。旅の途中の出来事や、継之助の心情などが飾ることなく綴られ、継之助の人物像まで読みとれる貴重な資料です。継之助の自筆原文を171枚の画像で掲載し、読み下し文と対比しながらご覧いただけます。

▲安政６年(1859)10月４日　「佐賀」の５ページ目

2.求志洞遺稿　小林虎三郎の遺文と詩

『求志洞遺稿(完)』は、明治27年(1894)小林虎三郎の17回忌に、甥の小金井権三郎（後に衆議院議員）良精（東大医学部教授）兄弟が、虎三郎の遺文や詩を編集発行したもの。求志洞とは、虎三郎の自宅の名。漢文・和装丁。巻頭に虎三郎の師 佐久間象山や同門の旧友 勝海舟の書を添え、虎三郎の教育論「興学私議」等64篇の文と「書懐」等165編の詩が収められています。故小林安治氏による読み下し文付でご覧いただけます。

興學私議

中國受庸之侮久矣苦容狎安慢勢不求所以救之之方及有癸丑虜夷之事然後知祖宗故事無以濟當時而變通更革之不可以已也於是一旦發令水陸兵制堡台之備皇畿巨艦以至凡百器械之細皆取則於荷蘭既而招致其人受操舟機練水兵之法又置武學建蕃書院設之教師以育多士凡彼諸學科皆得肆其力所及而治之蓋其意全在於取彼所長補我所短以振我弊而一革固執之私不難於其間也宜其兵制整堡台巨艦畿船器械盡利既足以禦寇之侮而人材日長國勢日々乎趨於强矣然而其效未期席見其若是也蓋以驕肆我唯惰々焉懷一物之不識其欲而或激其怒此其故何也忠在學不在上西文武百官事皆不學其職爲虛也古者治教一而學在上上之人以其學治天下之事教天下之人唐虞之際人材最盛

▶興学私議

◀佐久間象山「小林炳文へ贈る」
安政元年（1854）春、謹慎を命ぜられ帰郷する虎三郎に送った書

3.謙信・景勝・兼続　越後の戦国武将たち

上杉謙信の書状５点、上杉景勝の書状等８点、直江兼続の書状３点と大変豪華な顔ぶれがそろっています。これらの貴重な中世資料群は、長岡出身の古籍商故反町茂雄氏からご寄贈いただいた「反町文庫」の一部を成しています。ＮＨＫ大河ドラマ「天地人」が放送された平成21年には、全国の博物館等からこの資料群を展覧会に出品したいとの貸出依頼が殺到しました。

差出人の書名はありませんが、独特の筆跡から直江兼続の自筆書状と考えられます。宛所の「ちやうめい殿」が上杉景勝を茶席に誘いましたが、江戸出立の準備のため辞退する旨を兼続が伝えたもの。兼続は、行間に認められる追伸で、「自分は遅れて江戸へ向かうので、景勝出立後にお茶をいただきに伺います」と言葉を添えており、相手方への細やかな心配りが感じられます。

▲「直江兼続重光自筆書状」

4.軸物　書・画・書状・書簡が満載

人気の高い河井継之助の書４点、小林虎三郎の書９点をはじめ、片山翠谷（初代）の「長岡城下年中行事図絵」のシリーズ全33点、水島爾保布の「昔の長岡十二ケ月」全12点など、たっぷりとご覧いただけます。その他、小林雄七郎の書、小山良運や藤野善蔵の書状、三島億二郎自筆の書・書簡など、大変見ごたえのあるラインナップです。

◀三島億二郎 書
漢詩（蘇武の詩）

五月節句の町屋です。大幅の木綿に、武者絵・仙人などを描いた幟が立ち並んでいます。布地に絹物は御法度とされ、木綿で作られました。１日から６日までの毎日夕方４時ごろ、侍が馬に乗って、城内の厩から市中を一巡します。

［ネットミュージアム解説から］

▲片山翠谷（初代）画
「長岡城下年中行事図絵端午節句市中飾の図」

5.藩校崇徳館　関連資料

藩校崇徳館は、文化５年(1808)長岡藩９代藩主牧野忠精によって開設された藩士の子弟が学ぶ学問所でした。館名の崇徳は、徳を尊ぶという意。

ここでは、藩主 牧野忠精や10代藩主忠雅、都講（校長）の秋山景山や伊藤東嶽をはじめ、教授の山田到処、助教の小林虎三郎等のほか三島億二郎・高橋翠村・田中春回・中沢雪城・山本帯刀などの書画24点をご覧いただけます。

◀秋山景山画「宝珠三個」

学問の目的や修行の心得を示した学則「崇徳館学記」▶

★最新情報★「長岡市の文化財」を追加！

▲「狩野秀信筆　徳川十七将の図」

当館所蔵の長岡市指定文化財の中から牧野家ゆかりの資料を新たに５点追加しました。

①「慶長５年 牧野康成軍忠状」
②「寛永19年 牧野右馬允忠成の康成系譜書」
③「長岡藩３代 牧野忠辰書」
④「明治初期における牧野忠毅の版籍奉還に関する太政官通達等　４通」
⑤「狩野秀信筆　徳川十七将の図」

徳川諸大名のうち、徳川家の創業に尽力した武将を「徳川十六将」と称した。この絵は徳川十六将になぞらえて藩でかかせたものであろう。

絵の上段には家康がおり、中央４人の左から２人目には初代忠成の父康成が描かれていて、鎧直垂に「三葉柏」の紋所が見える。(昭和53年４月１日指定)

［ネットミュージアム解説から］

●参考：『長岡歴史事典』『長岡の文化財』『ふるさと長岡の人びと』『長岡市史　資料編３　近世二』『長岡市史双書№34　小林安治　国訳・略註　小林虎三郎の求志洞遺稿』いずれも長岡市／発行

所蔵資料紹介　No.136　　亀田鵬斎　書

草書歌行　李白
少年上人
号懐素
草書天下
称独歩
墨池飛出
北溟魚筆
鋒殺尽中
山兎八月
九月天気涼
酒徒詞客
満高堂牋
麻素絹排
数箱宣州
石硯墨色
光吾師酔
後倚縄牀
須臾掃尽
数千張飄
風驟雨驚
（以下略）

亀田鵬斎（1752-1826）は江戸後期の儒学者で「寛政の五鬼」にかぞえられ、書画家でもあります。名は長興、通称は文左衛門、号は鵬斎のほか善身堂・太平酔民などで酒豪としても知られていました。三井親和に書を学び、井上金峨に折衷学を学びます。江戸赤坂に開いた塾は移転するたびに門下生が増え、一時は千人ともいわれるほどの盛況ぶりでした。しかし寛政２年（1790）「寛政異学の禁」が発令されると次第に生徒は去り、鵬斎は46歳で長年続いた家塾を閉じます。

その後は当世随一の絵師谷文晁、酒井抱一らと旅行にでかけたり書画を合作したりしました。そして妻佐慧亡きあと鬱々としていた折、門弟である佐渡の矢島望の薦めにより、58歳で江戸を出発し約３年もの長きにわたり越佐を旅します。ここ長岡にも立ち寄りました。この旅で鵬斎は良寛と出会い意気投合、２人は互いのことを自作の詩によんでいます。信頼をよせあったエピソードが今に伝わります。

今回の作品は文政５年（1822）71歳の書で、李白が狂草の書家懐素（725-785）の鬼気せまる筆さばきを豪快にうたった詩です。懐素を好んだ良寛の影響でしょうか。それまで楷書の多かった鵬斎が、帰郷してからはくねりをきかせた草書を多く残しました。たとえ書作の文字は読めなくとも、この自由闊達な筆づかいは見るほどにひきこまれてしまいます。　（小熊よしみ）

越後文学さんぽ　～新潟出身の作家をクローズアップ～

相馬 御風（そうま・ぎょふう）（1883－1950）

明治―昭和時代の詩人、文芸評論家。明治16年７月10日生まれ。「早稲田大学」の編集にたずさわり自然主義評論を執筆。また三木露風らと口語自由詩運動を推進。大正５年郷里の新潟県にかえり良寛の研究にうちこむ。早大校歌「都の西北」の作詞者。昭和25年５月８日死去。68歳。早大卒。本名は昌治。著作に『御風詩集』『黎明期の文学』『大愚良寛』。　著者紹介：『講談社日本人名辞典』講談社より

『相馬御風』
金子善八郎／著
新潟日報事業社

今回紹介する資料は、『新潟県人物小伝』シリーズの一冊として発行されたものです。129ページとやや薄めの１冊ですが、相馬御風という人物に興味を持たれたばかりという方には、最適の１冊です。この伝記を読んで驚かされるのは、その交友の広さ。与謝野鉄幹・晶子夫妻、坪内逍遥、石川啄木、等々、日本文学史に名を残した人物がずらり。良寛の研究者としても知られている御風は、北大路魯山人とも交流があったようです。ところで、御風が早稲田大学の校歌「都の西北」の作詞者であるということをご存知の方は多いと思いますが、この他に、日本全国で200校以上の学校の校歌を手がけています。県内でも150校以上。御風作詞の校歌一覧がついていますので、ぜひご覧ください。母校の名前が発見できるかもしれません。

（徳永　馨）

縄文時代

遠い縄文の昔、人々は確かにこの国で豊かな文化を築いていました。あなたも縄文ロマンの世界に浸ってみませんか？

『JOMONESE』
国立科学博物館／協力
美術出版社

国立科学博物館で開催された「縄文人展」と同時にデザイナーの佐藤卓（たく）氏が企画した本書は、写真集や考古学の本といった枠を超えた作品。写真家の上田義彦氏が撮影した男女の人骨には縄文時代を生きた証が写し出されています。長岡出身の考古学者、小林達雄氏の寄稿文もあり、縄文のフィールドに新たな風を吹き込んだ一冊。

（山田 紀子）

『関原町史』
関原町史編集委員会／編　関原町史編集委員会

昭和11年大晦日、市内関原町の馬高遺跡で地元の素封家 近藤篤三郎氏が発見した一個の土器は、後に火焔土器と呼ばれるようになります。発見は近藤家三代に渡る調査研究の賜物でした。関原の歴史は縄文の歴史でもあります。

（矢野 直美）

『縄文土器ガイドブック　縄文土器の世界』
井口 直司／著　新泉社

縄文時代といえば土器。縄文人たちはこの器で、どんな食物をどのように煮炊きして食べていたのでしょう？そんなことを考えながら、ついページをめくってしまいます。因（ちな）みに表紙は長野県で出土した水煙土器。美しい形をしています。

（神保 弘美）

『縄文人になる！』
関根 秀樹／著　山と渓谷社

縄文時代の生活は便利さとは無縁なもの、というイメージがありますが、そこには連綿と受け継がれてきた知恵と技術があります。

縄文人たちの生きるための創意工夫は、現代を生きる私達にとってはむしろ新鮮に映ります。

（尾木　茜）

『縄文時代の考古学６　ものづくり
道具制作の技術と組織』
小杉　康・谷口 康浩・西田 泰民・
水ノ江和同・矢野 健一／編　同成社

縄文時代の生業を支えたのは土器だけではなく、石器などの道具も大きな役割を果しました。交易システムや製作技法など、道具から見えてくるものは沢山あります。内容は専門的ですが、縄文時代を今までと違った見方で捉えることができます。

（五十嵐一樹）

●展覧会情報●

栃倉遺跡展 －発掘された縄文時代の大集落－

栃尾美術館で５月26日まで開催中！

「栃倉（とちくら）遺跡」から出土した土偶や復元した土器などを展示し、栃尾地域の縄文文化の特色を紹介します。会期中には、講演会、解説会、縄文土器づくりなどのワークショップも開催。

【お問い合わせ】
栃尾美術館：TEL0258-53-6300

復元した火焔土器
〈長岡市指定文化財〉

イベントガイド（４月～６月）　※全て参加無料

【読者のつどい】　互尊文庫１階 児童室　19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

4/26（金）『新潟樽きぬた』　火坂 雅志／著

5/24（金）『こころげそう』　畠中 恵／著

【子どもの本を読む会】　中央図書館２階 講座室２　10:00～

子どもの本に興味がある方が集って感想等を語り合う会です。

5/8（水）テーマ「新学期」

6/12（水）テーマ「図書館をあつかった児童書」

【映画会】　中央図書館２階 講堂　14:00～　開場 13:30～　※6/8を除く

4/9（火）「リトル・ブッダ」（1993年 イタリア 他）141分

4/21（日）「遠くの空に消えた」（2007年 日本）144分

5/8（水）「アルジェの戦い」（1966年 イタリア・アルジェリア）116分

5/22（水）「ポール・ニューマンの脱走大作戦」（1968年 アメリカ）110分

6/8（土）　郷土映画まつり
「瞽女（ごぜ）さんの唄が聞こえる」（2008年 日本）10:00～ 78分
「冬のアルパカ」（2012年 日本）13:30～ 30分
「チョコラ」（2008年 日本）14:10～ 94分

6/21（金）　6/29はビートルズ初来日記念日
「愛と平和への祈り／ジョン・レノン＆オノ・ヨーコ」（2002年 アメリカ）14:00～ 52分
「バック・ビート」（1994年 イギリス）15:05～ 100分

【エコ・ブックスフェア】　中央図書館２階　美術センター

日時：6/9（日）午前～

【講座：はじめての読み聞かせ】　中央図書館２階　講座室１

日時：5/26（日）10:00～11:00　　定員：30名　講師：当館職員

【講座：「論語」を読む】　中央図書館２階　講堂

日時：6/23（日）14:00～15:30　　定員：180名　講師：今井雄介さん

※詳細は市政だより・図書館ホームページ等でお知らせします。

図書館ニュース

◆図書館で歴史的音源を楽しむ

中央図書館で、国立国会図書館が全国公立図書館等へ向けて行っている歴史的音源の配信提供サービスが利用できます。

歴史的音源とは、1900年初頭～1950年頃までに国内で製造された初期のレコード（ＳＰ盤）及び原盤を、歴史的音盤アーカイブ推進協議会（ＨｉＲＡＣ）がデジタル化したものです。落語、長唄、管弦楽、歌劇、清元、浪花節、歌謡曲講演、ジャズなど、多様な音源、約３万９千点（平成24年11月現在）を楽しむことができます。

サービスは全て無料です。

みなさんご利用ください。

【歴史的音源トップページ】
http://dl.ndl.go.jp/#music

名　称	電　話	休　館　日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文書資料室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり

◇◆◇ あとがき ◇◆◇

あの東日本大震災から２年が過ぎました。被災地の復興を願い、表紙に「祈」の文字を選びました。１年間大変ご好評をいただいた金澤翔子さんの表紙は今号まで。次号からは、写真家鈴木孝枝さんが撮影した石仏の写真です。どうぞお楽しみに！

（諏佐 志保）

平成25年４月１日発行

編集・発行　長岡市立中央図書館

住　　所　新潟県長岡市学校町1-2-2

編 集 員　長瀬 貴子　諏佐 志保　渡辺 雄亮　岩本 純子　本間　薫

メールアドレス　lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス　http：//www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印　　刷　北越印刷㈱